

## ジブンの人生の満足ボタンはすぐ近くでいつでも押せる。だから挑戦できる。

ネットのコメント欄やツイッターには、人のことを勝手に裁く自称裁判官が多数いるようで、大きな社会問題になっています。ランキングをつけたりするのも同じかと思います。類似する組織や何かの出来事がおこると「よい、わるい」を辛辣な言葉とともに発信する、賛同する。その文字化された「勝手な裁き」は時に当事者を貶めたり、追い込んだりします。発信しているほうは気分がいいようですが、人のこと（人生や進路決定）に対して、他の人が「よい・わるい」を言うことはできません。“他と比較することは最も無駄な時間である”、という言葉もあります。上には上がいきますから。

高校生にとって、自分が選ぶ進路は最も大きな意思決定です。当然、人それぞれ。この判断に他の人がよし悪しを言うことは意味がないのです。自分で選んだ道に「最高だ。満足だ」という判断下せるのはジブンだけであり、それが人生の幸福（これはスケールが大きい）にもなる。

そこで、1つの結論に至ります。「ジブンは満足だ」という判断ボタンは、ジブンのすぐそばにあるということであり、そして「挑戦」してからでも押せるということなのです。いつだって押せる、今だって押せます（まだ押さないと思いますが）。だから、「いろいろやってみてからでも押せる」のです。これくらいが私だな・・・と思ってボタンを押すのと、「いろいろと精一杯やった」あとに押すのは、同じボタンですが、違いがあると思います。だから、いろいろ挑戦してからでも遅くはなく、その挑戦や結果に他人の評価は関係ない、と思うのです。この夏、いろいろやってみませんか。

## ハングリーであることを、この夏のみなさんに期待したい。 ～逆境と順境～

自分に足りないものを克服しようとする向上心・・・これをハングリー精神と呼ぶそうです。

### (1) よく耳にするけれど・・・

何かを渴望する力は、時に大きな成功につながります。それを期待して「ハングリー精神を持って」と言われることもあるでしょう。確かに魅力的です。オリンピックで幾度も金メダルを勝ち取った女子レスリングの吉田選手は「実力が拮抗していたら、ハングリー精神で決まる。これは間違いない」と言い切っています。「人類に与えられた最大の原動力はハングリー精神」と考える人も多いそうです。ここまで重宝され、可能性と期待が詰め込まれたこの「精神」、いったいどうやったら持てるのでしょうか。みなさんは、「ハングリーになれ！」のあとに「こうやったらハングリー精神を持てる」という方法を聞いたことがあるのでしょうか。それとも、一喝の言葉として耳にただけでしょうか

### (2) 逆境の反対は・・・

よく似た言葉に「反骨精神」という言葉があります。自分が思い描く状況とはまったく違う「不利な状況」に直面した時、自分の信念を貫き通す精神のことです。大きな権力に立ち向かう等の時にも用いられます。「反骨精神を持って」というアドバイスを聞くこともあるでしょう。反骨精神とハングリー精神はちょっと意味が違います。反骨精神は「（権力や逆境に）屈することなく信念を貫け」、ハングリー精神は「上を目指す向上心を持って」。よく同じような使い方をされますが、実はおかれている環境が違うことに気づいたでしょうか。反骨精神は逆境の状態。では逆境の反対はなんでしょうか？・・・順境。

### (3) ツッパることが勲章・・・今日から俺は。の時代

少し前の日本社会には通称「ヤンキー」とよばれる若者（高校生が多い）がいました。制服を着崩し、非行を繰り返すのが彼等の特徴です。かつて部活動が活発化してきた背景の1つに、部活動がエネルギー余る高校生たちの指導（更生）に効果的だったことがあるそうです。理由は、若者の「満たされない気持ち」を解消する場でもあったからでしょう。原因は多岐にわたると思いますが、ツッパるのは「満たされていない」環境にあったからだと言われています。家庭などの本人をとりまく環境が、本人の満足感を充足できていない状況。だから心機一転「今日から俺は」。このような状況は、まさに逆境といえます。だからこそ「反骨精神」の象徴として、法や社会習慣に抗う若者が登場したとも考えることができます。

#### (4) 現代は・・・ツッパらない。

現代社会は逆境でしょうか？ 豊かな時代といわれる現代は、必ずしも満足感で満たされているとは限りません。見えていないだけで、あちらこちらに逆境はある。でも現代の若者は「そんな時代もあったのか」と珍しがっているように思えます。彼らの満足感は何で満たされているのか、そもそも若者の気質が大きく変わったのか・・・これは、まだ研究の段階だと思いますが、それらすべて「SNSとネット」に吸収されて、その場で起こっていると言えるでしょう。迷惑動画や炎上、誹謗中傷・・・。形が変わりましたが、逆境への対応の形がネット社会に移行したのは間違いなさそうです。だからこそ、ネット社会を生きることは、町で怖い人に出会うことと同じくらい「気を引き締める」のが大事なのです。「反骨精神」がすべてネットにいつているとも言えるでしょう。

#### (5) そして本題。ハングリーであれ。

みなさんの高校生活はネット社会ではありません。反骨精神ではなく、ハングリー精神を持って、この夏を過ごしてほしいと思います。ではハングリー精神はどうしたら持てるのか。

安心感のある状態のことを順境といいます。これは良いことですが、この状態に満足しないことを、ハングリー精神を持つ、と言います。言い換えると、「現状に満足せずに向上心を持つ姿勢」ということ。現状に満足しない・・・そんな気持ちをつくることは、実はとても大変な作業です。その理由は2つ・

1つ目は「もっと欲をもて」ということになるからでしょう。欲については、人類は宗教や哲学、道徳精神のなかでとりあつかってきました。東洋社会では欲深いことは罪。中国や日本には、「克己」という言葉がありますが、これは克己復礼が語源で、意味は自制する。つまり自分の欲を抑え込むということでもあり、欲をもつとは正反対に意味になります。日本社会でもよくスローガンとして使われます。決して悪い言葉ではなく「自身を制して、努力しよう」ということ。ただ、同じタイミングで「ハングリー精神を持つ」はちょっと違うような感じがしますね。自制する対象の欲は「煩惱」みたいなもので、遊びたいやサボりたいみたいな欲を断つことでしょう。

2つ目は「肯定されることであふれる現代社会」。学校でも会社でも、特に若い方々に対して「もっといいところを褒めよう」というのが現代日本です。〇〇がすごい、□□が優れている。今の姿こそ理想だ、とする肯定前提の接し方が主流です（ひと昔前は、とにかく厳しく。修行、修行・・・）。この方法は悪いとは言えませんが、「過去の自分」＝「理想の自分」になってしまう危険性もあります。ここが難しいところでしょう。

若者全員が「理想の自分」＝「現実の自分」とは思っていないはずですが、現代社会においてギラギラしている若者は、称賛されることが多いようにも感じます。現状維持ではなく常に革新、イノベーション、挑戦・・・世界の動きは速い、ネットの進化はすさまじい、科学技術は・・・と急かすような現代用語は、私たちに走り続けることを求めています。変わり続けることはとても重要です。息切れしないように、私たちは変化し続けなければならないですし、変化する人だけが生き残っていけるのも確かでしょう。ギラギラする若者は、〇〇がすごいですね、という言葉でも「自分はまだまだです」と言います。理想の自分はもっと遠い将来にあり、自分で自分を褒められる自分を目指しているからです。だからこそハングリー精神の重要性が言われているのだと思います。ハングリー精神を持つ方法は、「理想の自分を常に将来に置く」ことです。

## それぞれの夏の成長を期待します。

3年次は学習合宿があります。学力向上は「自学」で達成されます。なぜなら「苦手とする分野はそれぞれ違うから」です。自学で踏めるしかないのです。ただ、学習内容の要旨を凝縮した（その内容の核心をついた）すぐれた授業（講義）はその効果を何倍にもします（放課後講習等もそうです）。学習合宿はそれを組み合わせたもので企画しています。そして何より、刺激しあう仲間がいます。参加しない人も、合宿参加組はとても集中していることを忘れずに、よい刺激としてください。そして、その学習ペースをその後の夏休み残りにつなげてください。

【3年合宿の日程】 ※3年ぶりの復活。

- ・令和5年7月27日～29日 2泊3日 約100名参加 （最上町 観松館）
- ・国語、英語、小論文の有名講師を招聘。共通テスト対策のトップクラスの講義を予定しています。
- ・各教科教員が質問対応で待機しています。

1, 2年次。ここはじっくり弱点補強です。この原動力こそハングリー精神です。自分の理想は現状の成績ではないはず。理想の自分の将来において、今の時間を大切にしてください。特に2年生は、今から11月までが一勝負です。1月には、受験前哨戦がありますので、今が最重要。部活もイベントもあり多忙ですが、多忙であることは成長です。ぜひよい夏にしてください。